

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階ダイニングホール、事務室にケア理念を掲示し、スタッフ会議の際には理念を基盤とした話し合いも行われている。	法人の理念と開設時に職員で話し合ったケア理念があり、ケア理念は玄関、リビング、事務所に掲げられている。月1回のスタッフ会議では原点に戻り確認しあい実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域行事に参加したり近隣の小中学生との交流に併せ、区長さん、民生委員さんには会議、行事への参加に協力を頂けている。	小学生や中学校ふれあい委員会の生徒が来訪し、すごろくや百人一首、風船バレー、歌を歌うなどで交流している。小学校の運動会や音楽会の練習の見学、中学校の文化祭などにも招待されている。ホームのみに訪れるボランティアによる紙芝居、読み聞かせなどがあり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議や子供たちの訪問の際には、認知症に対する理解と接し方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間のテーマを決め2か月に1回、地域の方、専門職、市職員にテーマの内容により講師を依頼し知識を習得している。	利用者、家族代表2名、区長、民生委員、地域のボランティア、市職員参加の下、偶数月の第3金曜日の午後開催している。年間で計画を立て講師をお願いし、消防署員の時には避難訓練を行い、薬剤師、訪問看護師などの講話の後、意見交換も行っている。利用者も参加することがあり、また、職員も全員参加を基本としケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて活動内容、利用者状況、研修報告を通して事業所の理解が得られ、運営に対するアドバイスも頂いている。	運営推進会議に介護保険課職員も参加しており、情報交換している。市から派遣の介護相談員2名も3ヶ月に1回来訪し市との連携に結びつけている。介護認定の更新調査時には職員も立ち会い、利用者の日頃の様子などの情報提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束がもたらす弊害や身体拘束をしないケアの理解と実践について研修を行い、全職員が取り組んでいる。	年1回内部研修を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修に参加した職員がスタッフ会議で報告会を行い職員全員に周知している。状態により家族の同意をいただき夜のみ柵を使用する場合があるが、状態を記録し、常に柵に頼ることのないようなケアを検討し実践している。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、言動による虐待もある事を理解し無理のないケアと相手への理解に努めるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用者様が成年後見制度を活用されることで市職員、施設職員でも話し合う機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を説明し納得されている。質問されるご家族様には理解いただけるよう十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1回開き、意見や要望を聞ける機会がある。	面会時に声掛けし意見や要望をお聞きしている。家族会は1年任期で会長1名、副会長2名とし年1回開かれている。クリスマス会にはインタビューやアンケートなどで意見をお聞きし運営に反映させている。運営推進会議にも家族2名が交代で参加し意見交換している。3ヶ月に1回写真入りの「こだま便り」を発行し、利用者の様子を知らせ意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回は、スタッフ会議を設け管理者と職員が意見や提供を交わす機会があり日々反映されている。	月1回スタッフ会議を開いている。毎日、午後1時から3時に行う記録の時間などに職員から意見が出されたり、日頃のケアの中で折にふれ提案などを聞いている。職員に気になることがあればいつでも個別に相談できる体制であり、働きやすい環境づくりに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件に反映している。働きやすいように希望休の要望も受け入れ、不満のない職員に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に受講料の負担や法人内外の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会の参加や市の事例検討会のグループワーク等で相互の困った事等を話し合う機会があった。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼を築くまでに時間がかかるが、傾聴と寄り添うケアに心がけている。又、自ら悩みや心境を話してくれる方が多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	親しみを持っていただき、自然に話していただけるよう雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等との話し合いのなかで必要なサービスを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除、外出散歩など共に行動して、楽しく会話することでお互いに信頼される関係を作り、安心につながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議やイベントを行うなかで職員、家族、利用者様のコミュニケーションをはかっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方、知り合いの方が来所された折には、ゆっくり歓談していただいている。又、本人から希望があれば会いたい人との連絡をとるなど、交流できるよう支援している。	家族、兄弟、甥などの面会があるほか、昔の知人の来訪もあり、面会時には1階や2階のソファでゆっくりお茶を飲みながら過ごせるよう支援している。海外の子供さんから国際電話などもあり、楽しみにしている利用者もいる。受診の帰りに馴染みの店で買い物などを楽しむ方もおり、利用前からの生活環境の維持継続にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーション、体操、誕生会等全員が日々楽しめるように工夫し、孤立させないようにしている。利用者様同士でも協力し合っている姿が見られる。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院されたり他施設へ転居されても、時々面会に行き経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の発する言動や行動に敏感であり、どのような事を考え切望しているかを考え、思いやりを持って接している。	利用者9名中、介護度4の方が4名で、平均年齢90歳、利用期間も4名の方が5年以上と、利用者が重度化しており、思いや要望等表出が難しくなっている。そのため、職員も利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取りながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の家族構成、生活歴、趣味などの情報を知り個別ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用様の状態変化を把握し状況を職員間で共有することにより一人ひとりに必要なケアをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズに合ったケアプランにする為、ひとときシートを活用してじっくり課題について話し合う時もある。	一人の職員が利用者1名を担当しており、1ヶ月に1回、計画作成担当者がモニタリングを行い、担当職員を中心に3ヶ月に1回、本人や家族の意見・要望をお聞きし見直しを行っている。状態の変化により随時の見直しも行いケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はそれぞれの記録に必ず目を通し、利用者様の状況を把握するようにしている。疑問を持った際は、職員間で意見交換しケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活のなか、個性を大切に敷地内の散策や買い物支援を行っている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族やボランティア、地域の小学校との交流に参加したり、消防職員さんからアドバイスをいただきながら避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医と途切れることなく支援している。必要があれば紹介状を書いていただき専門医の治療を受けられるよう支援している。	利用契約時に意向をお聞きしており、全員が利用前からの主治医を継続し受診している。管理者が看護師であり、受診時には情報提供している。状態により内科・歯科の往診を依頼することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	多職種間や訪問看護師と情報を密にし、適切な処置やケアが受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ詳しい情報を伝え適切な治療を受けられるようにしている。又、退院時には、入院生活の情報や治療内容等詳しい情報を得て安心した生活が送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、面会時に、支援状況をお伝えする際ご家族に看取りの説明を行い、本人より早い時期に終末についての意向を聞きお伝えしている。又、看取り介護が必要になった場合の当施設の指針を説明した上で、希望を伺いできるだけ添うよう取り組んでいる。	利用契約時に本人や家族に希望をお聞きしているが、重度化した時には気持ちの変化もあることを踏まえ、家族には再度意向をお聞きし、医師、管理者等により検討をしている。職員間で情報の共有をし希望に沿えるよう支援している。協力病院の訪問看護も週1回来訪しており、24時間対応出来る体制もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃の状態をきめ細やかに観察し、手遅れにならないようにしている。又、職員会議でも対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などで区長さん、民生委員さんボランティアさん、ご家族、市職員等、話し合う機会を作っている。	運営推進会議に消防署員の参加をいただき、昼間と夜間想定訓練を年2回実施し、通報訓練、避難訓練などを行っている。非常災害時の食料品と日用品は1週間分用意されている。	ホームの立地条件を踏まえ、起こり得る災害を想定し、訓練の後には反省会を開き、手順の確認、見直しなどをし、緊急時に備えた実践的な訓練を更に重ねられることを期待したい。

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声掛けに配慮している。プライバシーが保てるよう個室となっている。	人生の先輩として尊厳を大切に言葉がけなどに配慮し対応している。ケア理念にも「誇りを保ち 安心とやすらぎのある・・・」が掲げられており、職員間で周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず、何をしたいか本人の意思決定を尊重している。又、選択しやすい言葉掛けとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のなかで、何をしたいか希望を伺い、積極的に取り組めるレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて、職員が散髪を行っているが喜ばれている。又、季節に合った服装ができるよう声掛けを行ったり、衣装ケースの整理も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りにこだわり食物の色合いに配慮し、目でも楽しめ食欲もでるよう心掛けている。又、畑で採れた新鮮な野菜も提供している。	一人ひとりの力量に合わせ利用者が調理の下ごしらえなどを職員と一緒にしている。メニューは季節感を大切にしている。昨年の親睦会はバーベキュー大会だったが、今年は利用者の状態を考慮し焼きそばやお好み焼きに変更するなど、利用者が楽しめるように工夫している。ホームには菜園があり、新鮮な野菜が食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた季節の献立にしており新鮮な材料を使っています。水分摂取では細目に声掛けを促している。飲みたがらない方にも時間をかけしっかり摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守りにて行っていただいている。行えない方には介助し不快にならないよう配慮している。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンに合わせ、声掛けや時間誘導を行っている。	排泄記録表により一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間を見計らって声掛けし、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。パットやリハビリパンツ、オムツなど、利用者の状態に合わせて常に検討を加えている。ホーム利用後、リハビリパンツから布パンツに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事や十分な水分摂取と適度な運動を支援している。踏み台昇降への取り組みも効果がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴と、夏場は週3回行っている。安心して入浴が行えるよう、リフトも完備されている。希望者に対応している。	月曜日と木曜日の週2回全員が入浴している。夏は土曜日にシャワー浴も行い3回としている。入浴を拒む利用者もなく、入浴剤や菖蒲湯等、季節感も大切にしている。気の合う方同士でお風呂を楽しまれる方もいる。職員も風呂場に1人、脱衣所に1人という体制で、状態に合わせてリフト浴も行い、利用者が安全にお風呂が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日規則正しい生活と寝具への配慮に心掛け、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っている。薬セット時の確認は、当日の勤務者2名によりダブルチェックしている。服用時の見守りも行っている。又、担当医と連携をとり薬の増減をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の得意な人は雑巾を縫い、工作の得意な人はイベントの飾り等を作り、自分の作品に満足感を得て喜びを感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出られる日は、できるだけ外の散歩、桜のお花見、バラ祭り、紅葉狩り、小中学校の音楽会、運動会等を楽しんでいただけるよう支援している。	ドライブを兼ねた桜、菜の花、バラ、蓮の花の見物など、年間行事計画を立て、馴染みの場所に出掛け季節感を感じていただいている。小学校の運動会や音楽会のステージ練習、中学校の文化祭観賞にも招待され楽しんでいる。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診の時など、欲しい物を一緒に探し、選んで購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にて話したい人に電話を繋げている。年賀状も書ける人には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔を保っている。エアコン温度の調整や明るい空間作りに配慮している。鉢花を置き癒しの空間となっている。	食事やテレビ観賞、音楽療法など一日の大半を過ごしているリビングには陽がサンサンと差し込み居心地の良さが感じられる。お風呂はリフト浴を使用しても気の合った方と一緒に入れるぐらい広く、利用者もちょっとした温泉気分で楽しい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤独にならないよう気の合った人同士の席の工夫や風船バレー、歌など皆で行える事への支援を行っている。テラスには寄せ植えの花が植えられ、室内から楽しめるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込みを大切にし、お部屋を馴染みの家具や写真を飾り、落ち着いた空間になるようにしている。	馴染みの家具や愛用の物が持ち込まれ一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫されている。家族の位牌や仏壇を持ち込まれている方もおり、毎日お水をあげ供養されているという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階への移動はエレベータを利用している。壁やトイレには手摺が設置され自立した生活が営める工夫をしている。		